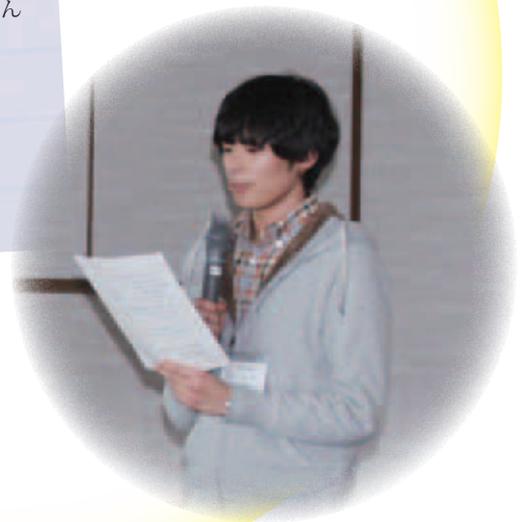


手紙

明治学院大学

2月9日(土)吉里吉里吉祥寺で行われた「明学(明治学院大学)生からありがとうを伝える会」で、読み上げられた4通の手紙。ボランティア活動をとおして、吉里吉里の人や自然に触れ、感じた思いを手紙に込めました。今回はその中から1通の手紙を紹介します。



明治学院大学の学生ボランティアは吉里吉里を中心に「中学校での学習支援」や「吉里吉里の復興の歩みのアーカイブ化」など6つのプロジェクトを展開してきました。

こんにちは、国際学科1年の荒井康介と申します。私は、2012年の5月に、初めてこの地を訪れました。それから約9か月、この土地とそこに住む人々に魅せられ、何度も何度も足を運んでいます。印象に残る言葉があります。「あなた方はもう、ここにいるときは、吉里吉里人なんだよ。」「あなたたちは、私の宝です。」そんなふうに、私たちのことを思ってくれる人がいること。そのことが、なによりもうれしくて、私は本当に幸せ者です。間違いなく、私にとって、吉里吉里は第二のふるさとです。この、縁あって訪れた土地を、縁あって出会った人を、大切に、共に歩み、生きていきたいと思えます。それでは、手紙を読ませていただきます。

私が悲しみに暮れ、思い悩んでいるとき、友人は何も言いませんでした。何も語らず、私のそばにいました。友人は言いました。「君の悲しみは、僕にはわからない。わかってたまるものじゃない。」と。そうして何も言わず、友人はずっと私のそばにいてくれました。私はその時、初めて、友の偉大さを知りました。私は吉里吉里人のそんな友達でありたい、そう思い、願います。誰かが涙ながらにこう言いました。「あの日を、悲しみを決して忘れることはできないんです。私たちはその背負って生きていくんです。」私はわかりません。あの日から、皆さんがどのような思いで生きてきたのか。私にはわからないのです。それでも、ずっと寄り添う友人でいたいと思えます。なにより、ちっぽけで未熟な青年ですから、迷惑か添う友人でいたいと思えます。なにより、この気持ちを受け取ってほしいです。あふれるほもかもしれません。しかしそれでも、この気持ちを受け取ってほしいです。あふれるほどの感謝の気持ちと、受け取った恩を、人生をかけて少しずつ、返してゆきたいです。

私は吉里吉里の青が好きです。それは、海と空の青です。果てしない青です。

私は吉里吉里の白が好きです。それは、砂浜の白です。まぶしい白です。

私は吉里吉里の緑が好きです。それは、木々の緑です。深い、深い緑です。

私は吉里吉里の赤が好きです。それは、太陽と情熱の赤です。染まる頬の色も好きです。時に熱く、時に温かい赤です。

私は吉里吉里の黒が好きです。皆さんの瞳の色です。吸い込まれる、不思議な黒です。この地にはたくさんの色があります。それは、たとえ薄くても、かすれていても、にじんでも、確かな色です。大切な色です。ゆっくりと目を開けると、そこはたくさんの色であふれています。私は、もっとたくさんの色を見つきたいです。もっともっと、たくさんの色を生みだしたいです。そうして、大きな一枚の紙に、みんなて絵を描きたいです。

すべての出逢いに感謝をこめて。

2013年 2月 9日

彩り鮮やかな吉里吉里、吉里吉里人への友達宣言

荒井康介より

編集後記

▼今年度も広報を担当することになりました花石です。担当は変わりませんが広報は総合政策課で作成することになりましたので、何かありましたら総合政策までご連絡頂けたら幸いです。▼卒業式を取材させてもらいました。日程の都合で、全ての学校に行くことはできませんでしたが行く先々で皆さんの表情を見ることができました。たぶん卒業式ほど皆さんの表情を一度に見られる機会は滅多にないのだと実感しました。ただ残念なこともあります。それは、自分が泣いてしまっって、せっかくの表情を撮影することができません。そして、たぶん来年も同じ思いをしている気がします。▼今年度あらたな広報マンが加わります。まだまだ先輩に教えてもらうことが多くかっこいい先輩にはなれませんが、二人で協力してよりよい広報を創っていきます。

お詫びと訂正

広報おつちNO.555(3月20日発行)の表紙の文章中のお名前に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。
川畑洋子↓川原畑洋子